

新聞が書ける喜び、新聞を読んでもらう喜びを感じることができる取り組み

指定校2年次 佐久市立臼田小学校 生島香代子 白鳥聖美 仲沢いずみ 高橋敏郎 新海理香子

1、本校の新聞活用、NIEの現状

本年度は、NIE研究指定校2年目となる。昨年度設置した新聞コーナーを今年度も引き続き設置し、子どもたちが新聞にすぐ触れられるようにした。

各学年では、それぞれの学習単位の中で新聞を活用して学ぶことが効果的な部分を考え取り組んでいる。

全校研究テーマ 「自分で考え、自信を持って、相手に伝える児童の育成」

NIE研究テーマ「新聞が書ける喜び、新聞を読んでもらう喜びを感じることができる児童の育成」

各学年の実践

○1・2年

・子ども新聞の記事紹介 ・スクラップ作り

○3年

・社会科見学新聞 ・取材方法、新聞作りの出前授業

○4年

・社会科見学新聞 ・長野県に関する記事集め

○5年

・キャンプ新聞 ・新聞スクラップの発表 ・5年生新聞（学級文集）

○6年

・修学旅行新聞



2、研究の概要

(1) 研究内容

今年度は、知障学級であるなでしこ学級を中心に研究を進めてきた。生活単元学習の中で取り組んでいる「なでしこ喫茶」の中で、担任は在籍している子どもたちが頑張っている姿をもっと全校の子どもたちに知ってほしいという願いを持っていた。新聞では、自分たちが頑張っている内容を詳しく伝えることができる。また、新聞は形式が決まっているため、繰り返し取り組むことで文章を書く見通しを持つことができる。この新聞作りを通して、知障学級の子どもたちが自分たちの思いを全校へ向けて発信できるのではないかと考え、取り組んできた。

(2) 公開授業

①単元名 「なでしこ喫茶」

②単元設定の理由

なでしこ学級は、6年生女子2名、5年生男子1名、2年生女子1名の計4名が在籍している。生活単元学習は畑作りなどの活動もあるが、なでしこ喫茶の活動が中心的な活動になっている。なでしこ喫茶とは、原学級の子どもたちや先生方、一般の方などをお客さんとして呼びし、自分たちが作ったケーキなどを出して接客する活動である。喫茶店の活動を通じて、人とのコミュニケーションの仕方を学んだり、仕事に対する責任感を身につけたり、お客さんに認めてもらうことで自己肯定感を高めたりするねらいがある。また、呼びしした人たちになでしこ学級のことを知ってもらう良い機会になっている。今年度はさらに、なでしこ喫茶の活動を新聞にまとめ発信する活動を考えた。なでしこ喫茶の活動は、子どもたちにとって楽しい活動であり、そのことを他の人に伝えたい気持ちがある。新聞づくりは、写真・見出し・記事と形が決まっていて、表現方法を身につけやすい。ケーキ作りの準備や自分自身が頑張ったことなど、自分たちの活動を詳しく伝えることができる。知障学級の子どもたちにとって新聞を書き上げたときの満足感や、その新聞を読んだ人が褒めたり認めたりしてくれたときの喜びが、自己肯定感を高めてくれる。以上のような子どもたちの気持ちや能力の高まりを期待して、本単元を設定した。

③単元展開

	学習活動	具体的な活動内容	時
喫茶	なでしこ喫茶(先生方)の準備	喫茶店のメニューを考える。チラシを作る。チラシを配る。	1
		役割分担をする。喫茶店の会場整備。ゼリー作り。	1
		喫茶店の練習をする。シフォンケーキ作り。	3
	なでしこ喫茶先生方へプレオープン	レジ係・サービス係・厨房係。反省とお茶会。	2
	新聞づくり (NIE 出前授業) (7/2)	先生方へプレオープンしたときの様子を、新聞にまとめる。	3
一般向け喫茶	なでしこ喫茶(一般向け)の準備	喫茶店のメニューを考える。チラシの一言を書く。	1
		役割分担をする。ゼリー作り。アイスクリーム作り。	3
		喫茶店の練習をする。シフォンケーキ作り。	3
	なでしこ喫茶 一般向け (7/17)	レジ係・サービス係・厨房係。反省とお茶会。	3
	新聞づくり	なでしこ喫茶を振り返る。「じゅんばんカード」を書く。	2
		新聞用紙に書く。	2
出張喫茶	出張なでしこ喫茶の準備	目的や、ケーキを届ける場所を考える。	1
		シフォンケーキ作り。出張喫茶の練習。	1
	出張なでしこ喫茶(ふらっとうすだ)	ケーキを配る。一緒に話しながら食べる。	2
	新聞づくり	新聞に書く内容を決め、「じゅんばんカード」を書く。	1
		新聞用紙に書く。	2
	新聞を届ける (9/18)	シフォンケーキを作る。	1
		ふらっとうすだへ、新聞とシフォンケーキを届ける。	1
喫茶	なでしこ喫茶(先生向け)の準備	なでしこ喫茶についての話し合い。	1
		喫茶店の会場整備。メニューと役割決め、チラシ作り。	2
		喫茶店の練習をする。シフォンケーキ作り。	3
	先生方へプレオープン (11/2)	レジ係・サービス係・厨房係。反省とお茶会。	2
喫茶・原学級外	なでしこ喫茶(3年生)の準備	メニューと役割決め。チラシ作り。	1
		シフォンケーキ作り。練習。	3
	3年生のなでしこ喫茶 (11/9)	レジ係・サービス係・厨房係。反省とお茶会。	2
	新聞づくり	新聞に書く内容を決め、「じゅんばんカード」を書く。(本時)	1
		新聞用紙に書く。1年生に新聞を届ける。	2
	なでしこ喫茶(1年生)の準備	シフォンケーキ作り。練習。	2
	1年生のなでしこ喫茶	レジ係・サービス係・厨房係。反省とお茶会。	2
	新聞づくり	「じゅんばんカード」を書く。新聞用紙に書く。	3
	なでしこ喫茶(4年生)の準備	シフォンケーキ作り。練習。	2
	4年生のなでしこ喫茶	レジ係・サービス係・厨房係。反省とお茶会。	2
喫茶・原学級	なでしこ喫茶の準備	シフォンケーキ作り。練習。(5年生、2年生、6年生)	8
	なでしこ喫茶	レジ係・サービス係・厨房係。反省とお茶会。 (5年1組、5年2組、2年生、6年生)	2 ×4
	新聞づくり	それぞれの原学級に向けた新聞に書く内容を決め、 「じゅんばんカード」を書く。	2
		新聞用紙に書く。原学級に新聞を届ける。	1

④新聞の学習における、なでしこ学級の子どもたちの実態

	子どもの実態	考えられる支援
A 児 2 年	・シフォンケーキを作った際、味の種類のカードや簡単な手紙を添えたりしようと話すと、自ら紙を準備したり先生の手本を見て文字を書いたりできた。 ・一人ひとり新聞を作る活動では、先生に、なでしこ喫茶の様子を一生懸命説明していた。その説明を聞いて、先生がじゅんばんカードに下書きを書きそれをなぞっていった。新聞用紙に写すときはカードを見ながら写し書きをすることができた。 ・デイサービスに新聞を届ける活動の際は、都合で新聞が書けなかったのだが、「私、新聞書いてない。前に書いたものを持ってくればよかった。」など、新聞を渡せないことをとても気にしていた。	・誰かに渡す、見せるなど、書く相手や目的を明確にする。 ・先生が話をしながら、書く内容を聞き出していく。 ・文章は先生が書き、本人はそれをなぞったり写したりするが、大事な単語は空欄にして自分で書かせる。 ・書いた文を先生と一緒に読む。 ・手元にひらがなの表を置く。 (目指す子どもの姿) ・じゅんばんカードを書く場面で、先生が示したいくつかの文の中から、自分がいいと思うものを選ぶことができる。 ・新聞用紙に写すとき、先生の下書きをなぞるだけではなく、じゅんばんカードを見ながら大事な単語を書くことができる。
B 児 5 年	・一人ひとり新聞を作る活動では、最初集中できない姿があったが、先生が横について励ましたり声がけしたりすると学習に取り組むことができた。リード文を書く際、板書を写したが、黒板を見て書くよりもお手本の文を書いたフラッシュカードが手元にあった方が書きやすいようだった。 ・新聞用紙に書く際、面倒くさがる様子があったが、用紙を大きくコピーしてマス目を大きくしたり、黄色で下書きをした上からなぞったりすると、意欲的に書く姿が見られた。 ・デイサービスでの交流を振り返ってデイサービスに渡す新聞を作る活動では、だれに新聞を渡すのか確認したり、言われて嬉しかったことを思い出したりすることで、書こうという意欲を高めることができた。	喫茶店の活動で使用したプリントや板書などを、新聞をつくる際に掲示したり、手元に置いたりする。 ・拡大コピーしてマス目を大きくする。じゅんばんカードを小分けにして、1項目ずつ書けた達成感を持たせる。 ・先生が横につき、渡す相手を意識させる声がけをする。 (目指す子どもの姿) ・じゅんばんカードに書く場面で、渡す相手に伝えたい事柄を自分で決めだし、書くことができる。 ・新聞用紙に書くとき、読む相手を意識して、丁寧な字を自分で書くことができる。
C 児 6 年	・日記など文章を書くことに苦手意識を持っていたため、「いつ、どこで、だれが、何をした、どうだった」をメモしてから文を書いた。そうすることで、スムーズに書き進められた。 ・一人ひとり新聞を作る活動では、じゅんばんカードに記入する時、先生と話をしながらマスを埋めていった。じゅんばんカードが書けてからは、新聞用紙をどんどん書き進め、その日のうちに見出しまで書いて仕上げることができた。	・書く内容を決め出す際に、喫茶店の活動で使用したプリントや板書、喫茶店でお客さんに言われた言葉などを掲示しておく。 ・導入の場面で、新聞を渡す相手をはっきりさせる。また、自分の書きたいことを3つ選ぶことを伝えておく。

	・デイサービスと交流した様子を新聞にまとめて届ける活動の時は、お年寄りに質問されたシフォンケーキの作り方を教えようと、紙面を半分も割いて作り方を全部書いた。	(目指す子どもの姿) ・じゅんばんカードを書く場面で、心に残ったことを決めだして書くことができる。 ・じゅんばんカードを書く場面や新聞用紙に書き写す場面で、喫茶店でお客さんに言われた言葉を「」を使って文章に書き入れることができる。
D 児 6 年	・一人ひとり新聞を作る活動では、じゅんばんカードに記入する時、先生と話をしながらマスを埋めていった。じゅんばんカードが書けてからは、新聞用紙にどんどんと書き進め、その日のうちに見出しまで書いて仕上げることができた。 ・デイサービスと交流した様子を新聞にまとめて届ける活動の時は、お年寄りに言われたことを覚えていて、印象に残った言葉を記事に書く様子が見られた。	・導入の場面で、新聞を渡す相手をはっきりさせる。また、自分の書きたいことを3つ選ぶことを伝えておく。 ・喫茶店の活動でお客さんに言われた言葉などを板書するなどして、記事を書く際にその言葉を思い出したり使ったりできるようにする。 (目指す子どもの姿) ・じゅんばんカードを書く場面で、自分の行動や考えを含めながら書くことができる。 ・なでしこ喫茶の活動のよさを詳しく伝える表現を使って、新聞を書くことができる。

⑤なでしこ喫茶の取り組みの様子



レジ係をするD児



注文をきくC児



シフォンケーキを準備するA児



ふらっとうすだに新聞をお届け



なでしこ喫茶の新聞をお届け



心をこめたシフォンケーキ作り

⑥本時案

(1)学習のねらい

1年生の来店を楽しみにしている子どもたちが、3年生の喫茶の活動を全員で思い出し、「じゅん」という気持ちを高めることができる。

(2)本時の位置

3時間中第1時（新聞作りに限って）

(3)指導上の留意点

・喫茶の活動がすぐ思い出せるように、3年生のなでして喫茶開店までに全員で話し合ったり決

(4)展開

段階	学習活動	○予想される児童の反応	
		A児	B児
導入	1 新聞で1年生に伝えたいことを確認し、喫茶の様子やがんばったこと、ねがいを具体的にするため、3年生の喫茶で言われたことを思い出す。	●来店する1年生に伝えたいことを確認する。 「今度誰に来てもらうんだっけ？」→ ○「1年生。」 →「1年生で「1年生に、なでして喫茶のどんなことを伝えたい？」 ○メニュー。 ●「3年生の喫茶の様子」「シフォンケーキを作ったときの様子」「ぜひ ●各項目を詳しくする言葉や文を、全体で確認する。「3年生の喫茶で、 ○シフォンケーキおいしいって ●Aさん卵上手に割れたからね。 ●書きたい意欲を高めるために、子どもたちのがんばりを認めるような ●子どもたちから出された言葉や文を、模造紙に書き出していく。 ●子どもたちから出されそうな文はあらかじめ書いておき、出されたと	○お待ちしています、ぜひ来てくださ いって伝えたい。 ○ふわふわでとてもおいしいと言っ てくれた。 ●Bくん、混ぜるの上手だったね。
展開	2 じゅんばんカードに詳しい内容を書き込む。	●水間先生についてもらう。 ○なでして喫茶の様子を水間先生にどんどん話すだろう。 ●水間先生は、話の中から心に残っていることや活動したことを詳しく説明した言葉をひろって、じゅんばんカードに書いていく。 ○水間先生が書いた文をなぞる。 大事な単語は空欄にして自分で書かせる。 ○話す、書くをテンポよく繰り返すことで、集中して取り組めるだろう。	●「だれに新聞を書くんだっけ？」「1年生は喫茶店初めてだから詳しく書いてみよう」など、相手や目的を常に意識させる。 ●取り組みやすいように、マス目を大きくした用紙を用意する。また、項目ごと小分けにした用紙を渡す。 ○新聞を渡す相手や目的を意識すれば、意欲的に書き進めるだろう。 ●じゅんばんカードに書き写しやすいように、模造紙に書かれた文を手元に持っていく。 ●意欲や集中が持続できるように、本人や友だちが書いている内容を読み上げる。 ○友だちの途中経過を聞いて、さらに書き進めるだろう。
まとめ	3 この時間にごん	●書いた量や内容など、よいところやがんばったところを個人の能力に ●次回の予定（じゅんばんカードの続きを書く、または新聞用紙に書く） 水間先生と話をしながら、意欲的に活動に取り組めたか。（じゅんばんカード、観察より）	新聞を渡す相手を意識しながら、最後まで活動に取り組めたか。（じゅんばんカード、観察より）

ばんカード」に喫茶の様子、がんばりやねがいを書くことで、1年生に喫茶店を楽しんでもらいたい

めたりしたこと（メニュー、役割分担、スケジュールなど）を、黒板に掲示しておく。

●教師の指導・支援 評価		時間
C児	D児	
知ってる友だち、いる？」・・・ 〇3年生の喫茶がどんな感じだったか伝えたい。 来てくださいという気持ち(メニューを含む)」を書くことを確認する。 どんなことを言われたかな。」 〇飲み物も好きなものを注文できて、本当のお店みたいと言っていた。 ●Cさんのやったサービス係の運び方も丁寧にできていたからね。 声がけをしていく。 きにテンポよく貼るようにする。		10
〇模造紙に書かれた文を手がかりにして、じゅんばんカードを書き進めるだろう。 〇文の表し方が分からずなかなか書けない。 ●感想を書く欄は、「ふわふわでとてもおいしいと言われてどう思ったの」など担任から具体的に質問して書く言葉を導き出す。 ●文法のまちがいについてはあまり指摘せず、書きすすめることに重点を置く。	〇シフォンケーキをどういうふうに作るか教えたい。 〇本当のお店で言われるような言葉遣いだったと言っていた。 ●Dさんのレジ係の声がけが丁寧だったからね。 〇模造紙に書かれた文を手がかりにして、じゅんばんカードを書き進めるだろう。 〇どれを書いていいか分からず、困ってしまう。 ●「3年生に言われた言葉の中で、どれが心に残っている？」など具体的に示して選ばせるようにする。 〇書く記事の文が決まれば、もくもくと書き進めるだろう。 ●漢字を使って書いていたら「1年生は漢字、読めるかな」と声がけし相手を意識させる。	25
合わせて認め、全体の前で紹介する。 を確認する。		10
新聞を渡す相手を意識して、じゅんばんカードを書き進めることができたか。(じゅんばんカード、観察より)	新聞を渡す相手を意識して、じゅんばんカードを書き進めることができたか。(じゅんばんカード、観察より)	

⑦本時の子どもの姿

◇支援者の具体的な言葉が活動を思い出すきっかけとなり、伝えたいことを決め出すことができたA児

前時のなでしこ喫茶での様子を思い出す場面で、友だちの言ったことを聞きながら思い出し、自分もお皿にケーキをのせたことを思い出すことができた。また、3年生に言われたことが話題にのぼると『『ケーキおいしかった。』っていつてくれた。』『またつくってね。』って言われた。』と、自分が言われたことを思い出して発表することもできた。導入場面で具体的に様子を思い出していく事で、記憶と言葉がつながり、書く内容がはっきりしてきたのだろう。じゅんばんカードに書く内容の決め出しでは、支：「おさらにのせたことにする？」「うん」支：「きのう、大きい声で言ったことおぼえてる？」「・・・」



「『また、つくってね。』って言われたことにする？」「・・・」「注文の紙を見て準備ができたことにする？」「うん」といったように終始、支援者とのやりとりで自分の書きたいことを選んで決め出すことができた。伝えたいという思いが平仮名を書くエネルギーとなり、平仮名表から文字を一つずつ拾っては写し、文章にしていっていった。集中時間も長くなり、文字への興味関心も出てきている。なぞり書きで書くことが多い「を」の文字を自分で書いてみようという挑戦する姿も見られた。新聞で伝えたいという思いがA児の学習をしっかりと支えてくれていたといえよう。

「おさらにケーキをうまくのせられた。ちゅもんのかみをみてじゅんぴができた。いらっしやいませをおおきなこえでいった。さとうをかけた。はきはきできてうれしかった。」と集中して書き進むことができた。

(太字はなぞり書き 囲い は自分で書いた)

◇相手を意識することが新聞を書く意欲につながったB児

5年生のB児は、文章を書くことを苦手としている。主に使うのはひらがなで、書くことを「忘れた」「分からない」と言ってなかなか書き始められない。集中できる時間も15分程度である。しかし、本時では45分間集中し、新聞の構成を考える「じゅんばんカード」を書き上げた。さらに、授業の最後には「新聞まで書きたかった」と言って意欲を見せた。まず、なでしこ喫茶の活動→相手（お客さん）から認められる→新聞作りで振り返りという常に相手を意識した活動によりやる気と自信を積み上げていった。また、一連の活動が繰り返されることで手順が分かり学習の見通しをもち、さらに「伝えたい」という願いを強くしていった。本時、「じゅんばんカード」を書く活動において、1年生という新聞を読む相手を意識させたこと、喫茶に来店した3年生の言葉を取材して短冊に示したことは、大変有効な支援となった。「11月の『月』って読めない？」と言って「がつ」に書き直したあたり、読み手を意識している。「じゅんばんカード」を書き上げた自信は、今すぐにでも新聞にしたいという意欲へとつながった。



◇黒板に掲示されている言葉を見ながら書き進めることができたC児

6年生のC児は、積極的に発言をすることが少ない児童である。本時の授業中も他の児童が答えていても、挙手せずに1年生の写真を見ていた。C児が発言をしていないことに気付いた担任が指名すると、「○○くんなら分かる。」と1年生の名前を挙げた。また担任の「新聞にどんなこと書けばいいかな？」の問いかけに対しても

「こんなことやっているよとか」と答え、新聞に書く内容を話し合っている際には「メニュー」と自ら発言をしていた。じゅんばんカードの第一記事には、3年生対象に行ったなでしこ喫茶の様子を書くことになった。黒板に提示されている3年生に言われた言葉を見ながら、5分で第一記事を書き終えた。担任の「すごい、早く書けたね。」の言葉に嬉しそうな表情を浮かべた。しかし第二記事に入ると、手が止まった。第二記事は、喫茶のメニューを書くことになっている。メニューは決まっていたが、単語を文章化することに戸惑っている様子であった。第二



記事の半分程度ではあったが、すべてのメニューを文にして書くことができた。第三記事に入ったところで、「じゅんばんカード」を書き終える時間となった。授業終了後のC児は笑顔が見られ、じゅんばんカードを時間いっぱい書き進めることができたことに達成感を感じた様子であった。

3、研究のまとめ

A児は読めるひらがなが15文字程度だったが、新聞を書くようになってからほとんどのひらがなを読めるようになった。ひらがなを書く時も以前は教師が書いたものをなぞるというやり方だったが、ひらがな表を見ながら自分で書けるようになった。自分が活動したことやがんばったことが相手に伝わるという経験によって、自分の思いを書いたり、手紙を書いたりする意欲が高まった。B児は集中力も続くようになり、相手に届けるものだからと、最後まで丁寧に新聞を書くことができるようになった。渡す相手が明確な新聞や手紙を書く活動には粘り強く取り組めるようになった。C児は卒業文集において、今まで書いた新聞を参考に「思い出に残ったこと」として、自信を持って文章を書くことができた。文章を書く時にはなかなか書き出すことができなかったが、新聞の書き方が身に付き、じゅんばんカードのやり方をイメージしながら、他の文章でも書き出しがスムーズになった。

なでしこ喫茶では他のクラスを招待するというだけでなく、今回作った新聞が、なでしこ学級と他の学級の思いをつなぐものになったことが一番大きな成果であった。また、見える相手がいるということは、子どもたちの「書きたい」という意欲を引き出すことを実感した研究となった。



A児のじゅんばんカード

4、今後の課題

- ・書いた新聞をお互いに読み合ったり、自分と違う表現や気づきの良さを認め合ったりすることで、表現力を高めたり、物事を見る視点を広げたりすること。
- ・必要な情報を新聞から探すこと。